

## キャリア教育と看図作文

工藤 真由美

**Thoughts on career education and education that involves looking at pictures and writing compositions**

**Mayumi Kudo**

キャリア教育において国語科は、言語活動の充実を図り、実社会や自分の体験から情報を収集吟味したり、自分の思いや考えを広げ深め、表現の仕方を工夫して他者との多様な交流を通して伝え合ったりすることを促すことで、キャリア教育の基礎的・汎用的能力の視点から見た「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の育成にも深く関連している。これらの能力は、看図作文の授業を構成する「変換」「要素関連づけ」「外挿」「他者との協同学習」ともかかわってくる。学生に「自己の生き方を模索する想像力」というテーマで看図作文を実施し作品分析をしたところ、絵図を見て生き方を考え作文することで「将来への模索」が進んでいることがわかった。看図作文の学修成果の一つは、人格と人生を豊かにし、深い洞察力をもって自己の人生を考察するというキャリア教育につながる力を形成することである。

**Key words** : 看図作文、絵図、キャリア教育

### はじめに

本稿の目的は、キャリア教育と看図作文の関係について考察することである。大学生に看図作文の授業を行い、大学生が自己の将来を模索する姿勢を深めることができているか、学習の取り組みの様子や授業後のアンケートなどから考察し、大学生にとって看図作文がキャリア教育に有用であることを検証していく。

看図作文は、絵図を詳細にみて読み解き、作文することから、しっかりと物事を見たり、

それぞれの関係性をとらえたり、見えていないものを想像で補ったりという視点が必要になる。そのことは自己を見つめる目につながり、キャリア教育への橋渡しになる力を養成することができるのではないかの考えのもと、看図作文の授業を行い、学生の作文から看図作文指導のキャリア教育への可能性を探っていく。

### I キャリア教育の方向性について

#### 1. キャリア教育の国の方向性

「キャリア教育」という用語が文部科学行

---

\*四條畷学園短期大学 ライフデザイン総合学科

政関連の審議会報告等で初めて登場したのは、中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について(平成11年12月)」においてである。平成18年に改正された教育基本法においては、「各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培う」ことが、義務教育の目的の一部に位置付けられた。翌年改正された学校教育法では、新たに設けられた義務教育の目標の一つとして「職業についての基礎的な知識と技能、勤労を重んずる態度及び個性に応じて将来の進路を選択する能力を養うこと」が定められ、小学校からの体系的なキャリア教育実践に対する法的根拠が整えられた。

また、平成23年1月の中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」では、幼児期の教育から高等教育までを通じたキャリア教育・職業教育の在り方がまとめられた。

平成30年改訂の高等学校学習指導要領総則では、「生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要しつつ各教科・科目等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。その中で、生徒が自己の在り方生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。」と記されている。

つまり、生徒に学校で学ぶことと社会との接続を意識させ、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育み、キャリア発達を促すキャリア教育の充実を図ることが求められている。そして、生徒が自己の在り方・生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うことも求められている。<sup>1)</sup>

また、これらが学習指導要領の総則に明示

されたということは、キャリア教育が、特定の教科・科目等ではなく、教育課程全体に関わるということを示しているのである。

## 2. 国語科とキャリア教育

平成30年告示「学習指導要領高等学校国語」<sup>2)</sup>においては、国語の資質・能力の基礎を確実に育成することを重視しており、生活全体の中で国語に対する関心や理解を深め、国語に関する資質・能力の育成を図るうえで必要な言語環境を整え、生徒の言語活動を充実するよう努めることが大切であるとし、他者や社会とかかわっていく生涯にわたる社会生活に必要な国語の特質について理解し、それを適切に使うことができる力の育成を求めている。それは国語が、生涯にわたる一人一人の自己形成、社会生活の向上、文化の創造と継承に欠かせないものだからである。

そして、国語科を通じたキャリア教育の実践についての基本的な考え方については、国語科は、国語で的確に理解し効果的に表現する言語能力を育成する教科であることを示している。様々な言語活動を通して、人間や社会の在るべき姿について考えを深め、自分の考えを形成し、言語化することは、自分や他者に対する理解を深め、今後の自己の在り方生き方を前向きに考えようとすることにつながるため、キャリア教育と深く結び付いているとされている。<sup>3)</sup>

また、高等学校学習指導要領解説総則編には「自分の考えをまとめたり、他者の思いを受け止めながら自分の思いを伝えたり、ホームルームにおいて生徒間で目的を共有して協働したりすることができるのも、言葉の役割に負うところが大きい。したがって、言語能力の向上は、生徒の学びの質の向上や資質・能力の育成の在り方に関わる重要な課題として受け止め、重視していくことが求められる。」とあり、生徒のキャリア形成において大切な言語能力育成の要となる国語科の果たす役割

は重要であると位置づけられている。<sup>4)</sup>

さらに、言語能力を育成する要の教科として言語活動の充実を図り、実社会や自分の体験の中から情報を収集・吟味したり、自分の思いや考えを広げ深め、表現の仕方を工夫して他者との多様な交流を通して伝え合ったりすることは、キャリア教育の基礎的・汎用的能力の視点から見た「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の育成にも深く関連している。<sup>5)</sup>

しかし、これらの4つの能力は、看图作文の授業を構成する重要な要素ともかかわってくる。それは後述する看图作文における「変換」「要素関連づけ」「外挿」であり、「他者との協同学習」である。

## Ⅱ 看图作文について

### 1. 看图作文とは何か

看图作文においては、日本では、鹿内らの看图作文の研究および教育実践が代表的であり、長年にわたり研究および教育実践が重ねられてきた。さらに看图作文に活用できる多くの絵図も開発してきた。その結果、二つの発見を行った。一つは、「絵図を読み解くプロセス・文章を産出するプロセスにおいて活発な協同学習が生まれる」<sup>6)</sup>ということ、もう一つは「看图作文づくりのノウハウが作文以外の教科や教育領域に適用できる」<sup>7)</sup>ということである。そのため、鹿内は「看图作文授業づくりの研究から得られたノウハウをさまざまな教科や領域の授業づくりに適用していくことを看图アプローチ」<sup>8)</sup>とよんでいる。近年法学、心理学、看護学など様々な分野に応用した看图アプローチの研究および実践が報告されている。

では「看图」から得られる効果は何か。看ることから生まれる効果は、じっくりと絵画を看ることでの発見であり、そこから生じる絵に描かれているもの同士の関係や、描かれ

ていないもの（目に見えないもの）への推測である。細かな部分を発見した後の喜び、達成感である。このような洞察力、見えないものへの推測、発見の喜び、達成感は、学習者へ次の学習への意欲をさらに喚起していく。また他者と発見を共有し補い合う中で協同学習としての学習者同士の活性化が見られる。そのような効果はどのような分野の学びにおいても普遍的で汎用性高く求められるものである。

このような点は、キャリア教育の基礎的・汎用的能力の視点から見た「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の育成にも通じると考えられる。

## 2. 過去の研究成果との関連

鹿内らは看图アプローチという「見る」ことを重視した授業づくりの方法や、そのために開発した多くの教材には、「キャリア教育」に活用可能なものが多く含まれているとして、実際に看图アプローチを活用したキャリア教育プログラム構成を試みた。特に国語の授業に看图作文を取り入れ、その教材にキャリア教育の要素を注ぎ入れることを試みた。

そもそも鹿内<sup>9)</sup>は、国語が物事を認識する力を育てる教科の一つとするならば「みる」ことの指導を取り入れていくべきであると指摘している。また、奥泉<sup>10)</sup>は、国語科教育には絵や写真、図といった図像テキスト、それらと文章テキストとの組み合わせから意味を構築する方法を提示している。

近年の学生の傾向として、文字を読むことへの苦手意識を持つことが多く、そのような今日の学生にはビジュアルに訴える学習方法が適しているとも考えられる。

## Ⅲ 看图作文の実践

### 1. 看图作文の手法

看图作文の授業を実践するにあたり、その

技法については鹿内の研究成果に学ぶことにする。鹿内は中国式の看図作文に対して、「心理学や記号論・物語論等の研究成果を活用して看図作文の授業理論」<sup>11)</sup>を構築し、絵図もオリジナルのものを作成した。これらの手法により中国式の看図作文に対して、自らの実践を「新しい看図作文」とよんでいる。(ここでは鹿内の提案した日本式の新しい看図作文を「看図作文」とよぶことにする)

看図作文では学習者に絵図を読み解かせていかなければならない。鹿内によると、絵図の読み解きに必要な活動は、「変換」「要素関連づけ」「外挿」である。

まず「変換」とは、テキスト中で記述されている概念や内容を別の言葉に言い換えたり、ある種の記号表示法を他の表示法に変えたりする活動である。次に、「要素関連づけ」とは、テキストを構成している諸要素を相互に関連付ける活動である。最後に「外挿」とはテキスト中で記述されている内容を超えて、結果について推測したり発展的に考えたりする活動である。<sup>12)</sup>

ここでいう「変換」はキャリア教育における情報を収集、吟味すること、「要素関連づけ」「外挿」は、キャリア教育で必要とされる収集し吟味した情報をさらに自分の思いや考えを深め他者と交流しながら、表現の仕方を工夫する力であると位置づけることが可能であると考えられるのである。

## 2. 看図作文の授業実践

では次に、看図作文の授業を行い、学生の看図作文を分析してキャリア教育との可能性を探っていく。

今回の授業の対象は、「教養の文学」を履修している短期大学1年生14人であり、2022年10月に実施した。授業テーマは「生き方を模索する想像力を育てる」である。授業では絵図1から絵図4までを順に提示し、複数の質問にグループで回答した後、最後に各自が

作文するスタイルをとる。



看図作文提示絵図1  
『見ることを楽しみ書くことを喜ぶ協同学習の新しいかたち—看図作文レパートリー—』所収  
石田ゆき氏作成



看図作文提示絵図2  
『見ることを楽しみ書くことを喜ぶ協同学習の新しいかたち—看図作文レパートリー—』所収  
石田ゆき氏作成



看図作文提示絵図3  
『見ることを楽しみ書くことを喜ぶ協同学習の新しいかたち—看図作文レパートリー—』所収  
石田ゆき氏作成



看図作文提示絵図4  
『見ることを楽しみ書くことを喜ぶ協同学習の新しいかたち—看図作文レパートリー—』所収  
石田ゆき氏作成

最後に作成された作文のうち、以下の学生の作文を対象として考察する。

#### 学生 A

毎日だらだらと目的もなく生きてきた遙亮。いつも人の言う通りその場その場で一番マシな選択をしてきた。努力はあまりしたくないし、人と競争するのもいやだし、しんどいことはもっといや。好きなことはゲームで、ゲームをしていると何も考えなくていいし、悩まなくてもいいし、楽だ。でもそろそろこれからの人生について考えないといけない時期がやってきた。どんな選択をすれば一番良い選択なのか。今まで真剣に考えた経験がないからどうすればいいかわからない。不安だ。泣きそうになったので、また一人でカードゲームをしていると、突然小さな魔法使いが現れた。

「遙亮くん、君は将来のことをどう考えているの？何をやりたいの？」

遙亮は何も答えられなかった。そして、「君は魔法使いなんだから僕の人生を決めてよ。なるべく楽で幸せな人生を。」

小さな魔法使いは、「僕はまだ子供だから魔法は使えないんだ。魔法使いの子供はみんな修行をして魔法を自分で身に着けていくんだ。じっとして、魔法なんか使えないんだよ。魔法使いとしての人生は自分で切り開いていくんだ。みんなそうしているの。」と言った。

「へ～そうなんだ。魔法使いの人生って大変なんだね」そう言うと遙亮はハッとした。「魔法使いも人間も同じ。やっぱり自分の人生は自分でしっかり考えて切り開いていかないといけないんだな。」

翌日、遙亮は、彼の部屋に飾っていたおじいさんから貰った絵のように自分の人生の頂上を目指して行動を起こした。遙亮は生まれ変わったかのように、本を読み、人とコミュニケーションをとり、資格の勉強をした。自

分の道は自分で切り開かなければという小さな魔法使いの言葉のように。

この学生 A の作文は、自己の現在の様子をよく投影しているようだ。学生 A の看図作文を経験しての感想文は以下のようである。

最近 1 年後期の授業が始まり、将来の進路を考える授業が多くなった。自分の周りでもインターンシップに行く子や資格取得を真剣に頑張っている子が増えてきて、正直焦っていた。とても不安だったがでもどうしていいかわからずに、それ以上に深く考えようとしていない自分がいた。きっとこの絵の中の遙亮は、今の自分の気持ちの表れだと思います。遙亮が小さい魔法使いに言った「君は魔法使いなんだから僕の人生を決めてよ。なるべく楽で幸せな人生を。」というセリフは、自分の心の願望だと思う。きっと自分でも自分の人生は自分が決めるしかないことはわかっているの、それも小さな魔法使いのセリフになったんだと思う。絵を見て作文することで自分の気持ちを整理している自分を発見した。絵は自分の心を見るきっかけになった。これからは逃げずに就職頑張ろうと思います。

#### 考察

学生の感想文にある「絵図は自分の心を見るきっかけ」という言葉が、非常に要点をついていると考える。自分の直面する問題（今は就職に関して）を避ける傾向を絵図は緩衝材となり心を見つめる契機となっていることがわかる。他の学生もそうであるように、大きな問題に直面すると人は問題から目をそらす傾向が極めて強い。学生にとっては、それは就職など将来の進路について考えることである。自分は何をしたいのか、どのような生き方を選択したいのか。自分には何が向いていて何を選ぶべきか。そのために今何をなすべきなのか。

この学生が自ら記述しているように、わかっているにもかかわらずその問題を直視することは苦痛であり、できるだけ避けようとしている。しかしこの絵図を見て作文するという手法で学生はすんなりと自分の今直面する問題を作文の主題として取り上げている。そして自分の今の気持ちに向き合い、それを登場人物に投影してセリフを作成している。

それは簡単な絵図をきっかけとして、その絵図をしっかりと「見る」ことから、次第にその視点が「自己の内面」へと向けられていくからである。絵図を見ることを契機とした視点が、次第に自己の内面へと向けられるとき、人はその感情を直視し、自己の感情をより客観化して表現するようになる。客観化することで自分を客観視することができる。自分が感じていること、悩んでいることを文字で表現することで整理することができ、より距離をもって自己を見ることで、また客観化が進む。

古来表現することはカタルシス効果があるといわれているが、文章を書くことが苦手な人間にとっては、この効果は得られにくい。しかし、きっかけが絵図であるので、文章が書きやすくなる。よって、カタルシス効果を得られやすくなるとも考えられるのである。

### おわりに

今回大学生を対象にした自己の生き方を模索する想像力というテーマで、看図作文を実施し、作品を分析した。絵図を見てそこから自己の生き方を考え、それを作文することが可能であり、看図作文を通して、「将来への模索」が進んでいることがわかった。

看図作文の授業後アンケート結果でも、看図作文は自分の将来を考える上で「とてもよかった」43%、「よかった」50%、「ふつう」7%、「あまりよくない」0%と概して高評価が見られた。

看図作文の学修成果の一つは、人格と人生

を豊かにし、深い洞察力をもって自己の人生を考察するというキャリア教育にもつながる力を形成することである。

今後はさらに、看図作文の絵図を工夫し、キャリア形成に必要な力を養うよう看図作文授業を工夫していくことをめざす。

### 注および参考・引用文献

- 1) 文部科学省 2023年5月『中学校高等学校キャリア教育の手引き』はじめに
- 2) 文部科学省 平成30年告示『学習指導要領高等学校国語』
- 3) 文部科学省 2023年5月『中学校高等学校キャリア教育の手引き』「第5章高等学校におけるキャリア教育の実践 高等学校 国語科」P152.
- 4) 同上
- 5) 同上 P153.
- 6) 安氏洋子 徳永基与子 鹿内信善 2016年「看図アプローチ協同学習ワークショップ—幼稚園教員養成・看護教育等でのいかし方—」第12回日本協同教育学会全国大会発表要旨集.
- 7) 同上
- 8) 同上
- 9) 鹿内信善編著 2010年「看図作文指導要領」溪水社.
- 10) 奥泉香 2019年『国語科教育に求められるヴィジュアル・リテラシーの探求』ひつじ書房.
- 11) 鹿内信善編著 2010年『看図作文指導要領』溪水社 P5.
- 12) 同上 PP5-6.

—11月6日受稿、11月17日受理—